

くらしと協同の研究所

2024年総会記念シンポジウムのご案内

本案内

- ◆日 程:7月6日(土) 13:00~17:20 シンポジウム
会場参加とリモート参加の開催
7月7日(日) 9:30~12:30 分科会
リモート開催
- ◆会 場:京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都 ※お申込メ切:6月17日(月)

生協・協同組合における人づくり

ー若者に協同の価値をどう伝え、魅力ある職場をどう作るかー

(開催趣旨)

少子・高齢化にもともなう労働人口の減少や雇用のミスマッチ、仕事や働くことに対する考え方の多様化等の理由により、企業における人材不足が深刻化しています。計画どおりに採用者を確保できない状況や、“1年1割、3年3割”とも言われる新卒採用者の高い離職率が指摘され、これらは生協においても同様の事態だと思われます。

その一方で、「協同」に関心を持ち期待を寄せる若者も増えています。SNSを駆使して情報を収集・発信し、ネット上でのつながりを作る「Z世代」と括られがちですが、やりがいをもって働きたい、地域に貢献する仕事がしたい、人と人とのコミュニケーションを大切にしたいと考える若者も存在します。

本シンポジウムでは、生協が持続的な経営を実現し、協同組合としての役割を発揮するためには、どのような人づくりを行えばよいのか。人づくりを、採用の前段階における若者へのアプローチから、採用後の定着に向けた人材育成と魅力ある職場づくりに至るプロセスとして捉えます。若者の自立に関する実践と政策を研究する教育学の専門家による基調講演、大学と協同組合との連携による「協同の人材育成」をめざすインターンシップの取り組み、魅力ある職場づくりや人事労務政策の転換にチャレンジする生協の実践報告、さらには、人を育てることを大切にして地域で必要とされることをめざす中小企業の経営者や生協の若手職員によるコメントも交えながら、皆さんとともに考えます。多数のご参加をお待ちしています。

本研究所 運営委員長 北川 太一(摂南大学)

主催:くらしと協同の研究所

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル蔦絵屋町258コープ御所南ビル4F

TEL:075-256-3335 FAX:075-211-5037

E-mail: kki@kurashitokyodo.jp *メールアドレスが変わりました

7月6日(土) 13:00～17:20 シンポジウム:ハートピア京都 3階大会議室

○ 開会あいさつ 13:00 ～ 13:10

第1部 基調講演 13:10 ～ 14:10

「若者が育つ社会をどう作るかー協同を学び、体感することへの期待ー」
南出 吉祥 氏（岐阜大学／若者協同実践全国フォーラム）

第2部 実践報告 14:20 ～ 15:50

報告1 「『協同を学ぶ』インターンシップ つながりインターンシップ
@協同の取り組み」
石澤 香哉子 氏（一般財団法人地域開発研究所・研究員）

報告2 「若者に魅力ある職場をどう作るか①」
甲斐 信喜 氏（生活協同組合おおさかパルコープ 常務理事）

報告3 「若者に魅力ある職場をどう作るか②」
森 健 氏（エフコープ生活協同組合人事部 部長）

第3部 ディスカッション 16:00 ～ 17:10

コーディネーター 細川 孝 氏（龍谷大学・本研究所企画委員）

コメンテーター 田中 陽一 氏（京都エレベータ株式会社 代表取締役）
吉田 博信 氏（京都生活協同組合 店舗運営部マネジャー）

まとめ 17:10 ～ 17:20

※第32回総会 17:40 ～ 18:10

くらしと協同の研究所への入会のご案内

くらしと協同の研究所は、個人会員と団体会員によって構成されており、常時会員を募集しております。詳細については、以下のQRコード・URLに記載しておりますので、ぜひご関心をお持ちの方にお声掛け下さい。

入会のご案内 : <http://www.kurashitokyodo.jp/entry/>



●会員になると、以下のご案内・活動情報等をお送りさせていただきます。

- ・季刊『くらしと協同』（年4回発刊）をお届けします。
- ・当研究所主催のシンポジウムやセミナー等の報告冊子等をお届けします。
- ・当研究所および各研究会の発行物のご案内をお届けします。
- ・公開の研究企画、講演会等のご案内をお届けします。
- ・総会に参加し、研究所の活動や運営について発言・提案や自主研究会の開設を行うことができます。

7月7日(日) 9:30~12:30 分科会:リモート開催

第1分科会 「未来に向けての生協のつながりづくり」 ー有機農産物・こめたまごを介した農業者とのつながり おしゃべりパーティーを介した組合員同士のつながりー

私たち「次世代生協研究会:若年層と創る未来の協同社会に向けて」は、未来を持続可能なものにする社会的連帯経済の主役として生協を位置付け、その「生協ならではの」連帯性・社会性の高い取り組みとしての「産直・倫理的商品」と、「若年層をはじめとする組合員のニーズ」を主な調査研究の対象としました。

その成果報告として、本分科会においてはまず、有機農産物とこめたまご(飼料用米を利用した鶏卵)の取引を持続的なものにするために、すなわち農業者から生協組合員までのつながりを確固たるものにするために必要なことや、生協の役割について議論します。さらには、おしゃべりパーティーに参加する若手組合員の、組合員同士・生協・地域社会とのつながりの意識や、同パーティーに参加する効果について議論します。

コーディネーター 辻村 英之 氏(京都大学:本研究所研究員)

報告Ⅰ:「生協における有機農業へのアプローチを考える」

岩橋 涼 氏(名古屋文理大学:本研究所研究員)

報告Ⅱ:「鶏卵生産における飼料用米の利用と生協の役割」

山野 薫 氏(京都橘大学:本研究所研究員)

報告Ⅲ:「現在の若年層の意識と生協における組合員活動の影響ーおしゃべりパーティを中心にー」

加賀美 太記 氏(阪南大学:本研究所研究員)



第2分科会 「地域の生産者や食品メーカーとの共存のため、 生協は何ができるのか?」

小売業界では大手資本を中心とし、魅力的なPB商品の開発や低価格化を実現するため、スケールメリットを巡る競争が激しくおこなわれています。生協でも事業連合による共同事業が広がり、今では多くのコープ商品の開発機能が単協から事業連合へと移っています。ただその一方、商品の調達や開発に関わる単協レベル独自の活動すべてが失われたわけではありません。むしろ、一部の商品については、単協が主体となり地域の生産者や企業との連携を通じて調達・開発された独自性の高いものもあります。

本分科会では、地域生協が地域の生産者や企業との密接な連携を通じて調達・開発した商品を事例として取り上げ、そうした商品の調達・開発が生協及び、その取引先である地域の生産者や企業に対してどのような意義をもち、いかなる効果を生み出すのか、ということについて検討したいと思います。

コーディネーター 下門 直人 氏(京都橘大学:本研究所研究員)

報告Ⅰ:辻井 孝裕 氏(丸栄製パン株式会社 代表取締役社長)

白石 一夫 氏(生活協同組合コープしが 代表理事 理事長)

報告Ⅱ:川澄 亮太 氏(コーミ株式会社 代表取締役社長)

森 政広 氏(生活協同組合コープあいち 代表理事 理事長)

報告Ⅲ:角田 祐子 氏(島根中酪株式会社 営業部 部長)

小林 健吾 氏(生活協同組合しまね 専務理事)

湯原 拓也 氏(生活協同組合しまね 商品企画チームマネジャー)

報告Ⅳ:久場 興志 氏(株式会社沖縄ホームル 取締役 製造部 部長)

備瀬 知晶 氏(生活協同組合コープおきなわ 協同購入商品部 部長)

